

# 60周年記念メッセージ起草委員会に参加して

福岡県糸島市 小島 幸江



行政相談委員制度は、令和3年に60周年を迎えました。

総務省と全国行政相談委員連合協議会は、記念事業の一環として「記念式典」を平成3年7月1日、京王プラザホテル（東京都）で開催し、それに合わせて地方でも式典を開催することにしました。

また、記念式典において「委員からのメッセージ」を公表する方針の下、起草委員会を設置して案文を検討することになり、九州行政相談委員連合協議会（九州広相協）事務局長をしている私に起草委員への就任要請がありました。

メッセージ起草委員会の構成は、広相協から8名、沖縄地相協から1名、東京近隣地相協から5名の行政相談委員14名と、総務省行政相談企画課及び全相協か

らそれぞれ2名の計18名でした。

まず、第1回目の起草委員会は、3月22日付で、コロナ禍で会議は行なわず、文書により原案作成作業を進めることにした旨を説明した文書とともに、①起草委員会設置について、②委員名簿、③今後のスケジュール及び④行政相談委員制度60周年記念式典における「委員からのメッセージ」についての地相協会長アンケート結果の資料が郵送されてきました。

3月初めに行われた地相協会長アンケートでは、①タイトル（案）、②内容に盛り込んだらよいと思う字句（単語等、文章）について50の地相協会長から回答があったものを項目別にまとめてありました。

起草委員会委員としてのアンケートには、①タイトル、②内容（50周年記念宣言との関係・前文・メッセージの項目数・キーワード・結び、メッセージ活用法・その他意見）の設問があり、一週間以内に回答しました。

第2回目の起草委員会は、4月15日付で、前回の「委員からのメッセージ」調査結果と各委員の意見一覧資料を添えて、起草委員意見を踏まえた「メッセージ事務局（案）」が5案示され、良いと思う（案）について理由と意見を問うものでした。

それぞれの委員意見や意見数など資料と比較しながら検討し、一週間で調査票を提出しました。

第3回目の起草委員会は、4月30日付

で、前回の委員意見を踏まえての最終事務局案の検討でした。

先の事務局素案に関する各委員の意見を一覧にまとめた調査結果を資料として添えてあり、事務局最終案と比較検討できるようになっておりました。私は、「それぞれの委員から出た意見をおおよそ入れてよくまとめてあり、声に出して読んだときにスムーズに耳に入ってくる文章になっていると思います。この案でよいと思います。」と、最終案に関する意見を提出しました。

これで、3回にわたる起草委員会の作業は終わりました。

5月7日付で全相協から、「起草委員全員から『事務局最終案のとおりでよい』との回答があり、起草委員会(案)として決定させていただきます。」との通知がありました。

この後は、全相協事務局より5月14日の全相協役員意見交換会で報告し、次の全相協理事会で承認を受け、6月の全相協総会に報告するという計画でした。ところが新型コロナウイルス感染症の状況から、「記念式典」が次年度に延期されることになってしまいました。3月から

一週間ごとに委員意見を提出して、7月の「記念式典」に間に合わせるように全相協事務局も私たち委員も頑張って作業をしてきたことを思うと残念でした。コロナ禍憎しですが、致し方ないことだと思えます。

この様な状況から、「記念メッセージ」については時期を損なわないように、令和3年10月の行政相談週間に公表されることになりました。

起草委員会に参加して一連の作業を通して分かったことがあります。

「行政相談委員は、国民の視点から相談者の立場に立って、相談内容をよく聴き、誠意をもって行政につなぐ国民と行政との懸け橋である」という同じ考えの下、全国の行政相談委員が日々の相談業務に当たっているということが確認できたことでした。私も行政相談委員としての心構えを再認識いたしました。

終わりに、委員制度60周年という節目に「委員からのメッセージ起草委員会」に参加させていただいたことに感謝するとともに、未来につなぐ行政相談委員制度の更なる充実発展と、新型コロナウイルス感染症の終息を心から祈念申し上げます。

